

講義名：経営財務論(基礎) <春> 担当教員名：今木 秀和		ナンバリングコード：0	
研究室：名誉教授控室		オフィスアワー：授業前後	
		メールアドレス： h-imaki@andrew.ac.jp	
授業形態			
『講義』			
講義・演習概要			
企業は、様々な経営資源を必要としている。人、物、金(カネ)、情報という資源がそれである。このうち金(カネ)という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。金(カネ)は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業の内部(内部留保、自己金融)から調達する。調達した資本は、企業と事業の目的や使途に合わせて資産の形で運用される。運用の結果は、損益やキャッシュフローとして把握され、配当・内部留保・自己株式の取得などとして処分される。資本の調達・運用・利益処分がこの講義の主要な問題領域である。この講義では、経営財務の基礎的な知識を習得することを目標として講義する。			
学習目標			
企業の経営財務の基礎的な知識の習得がこの講義の目標である。テキストの各章の章末演習問題を解くことによって基礎的な知識の習得ができているかを確認しながら学んでいく。章末演習問題に取り組んだ結果は、レポート(おおむね3～4回程度)として提出を求める。毎回その授業で学んだ内容を要点にまとめ、整理し、「コメントカード」に記入してもらう。このカードには、質問・意見・要望などがあれば、併せて記入してもらう。次の授業で解説・説明・対応策について述べる。コメントカードは、毎回の授業の学習効果を高めるために記入してもらうものである。			
講義・演習計画			
【第1回】オリエンテーション:経営財務論について			
【第2回】財務管理とは			
【第3回】財務的意思決定の基礎(1)			
【第4回】財務的意思決定の基礎(2)			
【第5回】財務的意思決定の基礎(3)			
【第6回】レバレッジと資本コスト(1)			
【第7回】レバレッジと資本コスト(2)			
【第8回】財務分析(1)			
【第9回】財務分析(2)			
【第10回】財務分析(3)			
【第11回】資金繰りと財務管理・資金計画(1)			
【第12回】資金繰りと財務管理・資金計画(2)			
【第13回】投資案の評価(1)			
【第14回】投資案の評価(2)			
【第15回】投資案の評価(3)			
成績評価の方法			
試験	70%	レポート	20%
出席			10%
コメント	成績評価は、学期末試験を基本とする。経営財務の基礎的知識の習得がこの講義の目標であるので、知識の習得がどの程度できているかを試験によって判定する。学期の途中で学習を整理し、理解を深め、知識を確実にするために数回(おおむね3～4回程度)のレポートの提出を求める。授業では毎回「コメントカード」の提出を求める。これは毎回の学習を効果的にするために記入してもらうもので、授業で学んだ要点をまとめ、整理し、さらに質問・意見・要望があれば記入してもらう。次の授業でそれらへの解説・説明などを行う。上記の「出席10%」は、このコメントカードの点数であり、しっかりした良い記入のあるものに限って点数を与える。		
テキスト			
著書	梶原茂樹・菊池誠一・新井富雄・大田浩司	タイトル	『現代の財務管理 新版』
ISBN	978-4-641-12427-1	出版社	有斐閣
教科書購入区分	生協購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
高橋文郎・井出正介著『経営財務入門』日本経済新聞出版社			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)			
基本的には講義計画に従って授業を進めるので、事前にテキストの該当箇所を準備学習としてよく読んでおくことを当然の前提として講義する。またテキストの各章の章末演習問題に繰り返し取り組むことを事後学習として義務付ける。事後学習の結果は、数回(おおむね3～4回程度)のレポートとして提出を求める。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			